

ミニバスに感動しました！

水戸南RC新世代奉仕副委員長 竹内 秀雄

今年で第8回目となる水戸南ロータリークラブ杯ミニバスケットボール大会の準決勝、決勝戦が、2月7日(日)見川総合体育館にて行われました。私自身この大会を見るのは初めてでしたが、その気持ちを一言で表すならば、「感動」しかありません。

朝8時に水越委員長と現地で待ち合わせをしました。まずは看板の取り付けです。ステージ上部の看板取付パイプを下ろします。これが非常に重く、二日酔いも醒めるほどでしたが、大会関係者の方々から『これは素晴らしい看板だ！』とお褒めの言葉をいただき、気分良く一日が始まりました。

開会式では、水越委員長が選手たちに対し、怪我の無いよう精一杯力を出して欲しい、私たちも皆さんのパワーを貰って帰りたい、との言葉を送りました。

まずは女子の部からです。バスケットには今まで興味がなく、ルールさえ知りませんでしたが、皆に教えてもらいながら、楽しく観戦しました。コートで真剣に戦う選手たちには感銘を受けました。しかし、一番胸を打たれたのは、補欠の子供たちの姿です。自分が試合に出ることは叶わないのに、スタンドで腹から声を出し、一生懸命応援をしていました。それ見て、不覚にも涙がこぼれそうになった私です。

続いて男子の試合が始まりました。女子とは明らかに違うパワーとスピード。この大会に出場しているのは全て5年生以下だそうです。その技量の高さには驚かされます。ドリブルの速さや、パスやシュートの正確さを見ていると、まるでNBAの試合を見ているかのよう。いやはや恐れ入りました。

決勝へは、女子は赤塚と小川が、男子は酒門と瓜連が進みました。父兄、チームメンバーの声援や、監督の怒鳴り声が鳴り響き、会場はヒートアップしています。そして、女子は赤塚、男子は酒門が優勝しました。

表彰式では、1位～3位のチームに、賞状とメダルが授与されました。コートの中ではとても大きく見えていましたが、いざ目の前に立つと、やはり子供です。「おめでとう」と言うと、蚊の鳴くような声で「ありがとう」の返事。そして、その場にいた全ての人々が、感動していました。

私たちは一年限りで担当を替わりますが、今後も1人のファンとして、未永くこのミニバス大会を応援していきたいと思います。最後になりましたが、この大会を応援してくださいましたメンバーの皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。